

作者に聞く

「先生おめでとうございませ」と30年前の教え子から電話があり、びっくりするとともに嬉しくなりました。過去に勤めた伊江島や渡名喜、渡嘉敷島の方からも祝福の言葉が届き感謝の一言である。また、同僚である糸満市教育委員会の皆さんもとても喜んでくれた。

これまで、渡嘉敷小学校や光洋小学校で学芸会のために劇のシナリオを書いたことはあるが、童話を書くようになったのは最近のことである。数年前から5月の連休は童話を書くことが私の恒例行事になっている。伊江島の伊江小学校で勤務したときに創作して子供たちに読み聞かせしたのが「60年目の夏」と「城

山の神様」である。幼稚園から小学校6年生までの子供たちが体育館に集まって私の話を聞いてくれた。「おもしろかったよ」と言う子供の声は、とても嬉しく、次への意欲付けになる。

両作品をふくむ童話に応募したら1次審査は通過したものの入賞はできなかった。児童たちの反応はいま

育ち見守る姿描く



大賞を受賞し、笑顔をみせる金城毅さん（糸満市役所）

学校現場の体験生かす

今回の作品「校長室の秘密」は、私が学校現場で見たり、聞いたりしたことを基に、子供や教師の育ちを信じながら見守る校長先生を思い描きながら仕上げた。私が教頭としてお世話になった4人の校長先生も、子供や教師のことをいつも考えてくれる个性的で心優しい方々であった。

現在、教育委員会の事務局に勤めているので「校長室の秘密」を子供たちに読み聞かせするチャンスを得てない。今後も子供たちの反応を楽しみながら、マイペースで作品を創りたいと思う。

ところで、糸満市教育委員会では第8回「絵本の広場」を11月6日に開催予定である。このような行事にも関わりのながら、子供たちに素晴らしい本を紹介し、読書活動の楽しさを伝えていきたい。